



写真等無断転載禁止

生きもの講演会開催報告「千葉県のニホンリスについて」

ちば環境情報センター 副代表 東京都江東区 小田信治

11月23日(土) 10:00~11:45、千葉市文化センター9階会議室にて、ちば環境情報センター主催の生きもの講演会を開催しました。参加者は25名でした。講師の矢竹一穂氏は、(株)セレス技術本部環境部に所属し、千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会(動物部門)哺乳類分科会委員として、千葉県に生息しているニホンリス(以下、「リス」と言う。)の調査をされています。

昨年度から千葉県RDBの改訂版の検討会が始まり、矢竹氏は県内のリスの生息調査を開始し、今年9月29日に下大和田の調査で、リスの食痕(アカマツ)が確認されたと報告をいただきました。なお、その詳細については、ニューズレター第327号(2024. 11. 7発行)に寄稿していただいています。

生きもの講演会では、矢竹氏から以下の項目について講演いただきました。また、リスの食痕(アカマツ、オニグルミ)と巣の実物の展示も行いました。

1. リスの紹介: 日本にどんなリスがいるでしょう
2. リスの生態: 移・食・住・・・森林との結びつき
3. 分布・生息状況: リスが危ない!!
4. 調査の方法: リスを見つけよう!

矢竹氏の講演では、千葉県北部は市街化等により、森林の分断や縮小が進み、2001~2003年の調査では生息が確認されたメッシュ(10km×10km)は52.1%であったのが、現在は30%程度に減少しており、一方、千葉県南部は2001~2003年の調査では74.4%で、2018~2019年では58.8%と減ってはいるが、なんとか50%以上を保っていることが示されました。リスは森林環境に強く依存した樹上性の

動物であるため、道路等で森林が分断されると大きな影響を受けることが数値に現れています。リスの生息が危機的な状況にあると言えます。

講演に続き、参加者とリスの生息情報交換及びリスが棲める森の保全について意見交換を行いました。リスについての活発な質疑があり、参加者から小山町でリスの目撃情報の報告もありました。今後、下大和田の森の整備を考える上で、「リスが棲



講演会会場の様子

める森づくり」を目標にしてはどうかと考えます。

講演の次に、運営委員の小田より、リスやヤマネ等の樹上性動物をロードキル(自動車による轢殺)から防止する専用の橋(アニマルパスウェイ)の概要説明とアニマルパスウェイ普及アニメ「約束の森~ヤマネ物語~」の上映を行いました。有意義な講演会となりました。

アニメ「約束の森~ヤマネ物語~」は右のQRコードからご覧いただけます。



谷津田に忍び寄る黒い影 その3 私たちができること

千葉市緑区 高山 邦明

前回までの記事で農家の高齢化に伴って耕作放棄田んぼが急増している現状を見てきました。ちば環境情報センターの谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)が活動を行ってきた千葉市緑区の下大和田や小山でも実際に起こっている深刻な状況で、豊かな谷津の自然が静かに、着実に失われつつあります。それに対して私たちに何ができるのでしょうか?

YPPの活動は2001年に始まりました。「プレーランド」=「遊園地」~施設がなくても谷津田は遊園地のよう楽しめる場。谷津田の魅力を発見し、たくさんの人に伝え、谷津田の保全につなげよう。」がYPPの目指すところです。「田んぼが遊園地?」などと言うと叱られてしまいますが、元々、泥深くて耕地整理が難しい小さな田んぼが多い谷津田は、大規模で効率的な商売に

なる米づくりができる場所が少なく、保全を考えた場合、米づくりの大変さよりも楽しさに注目した方が良さだろうと考えました。谷津田には驚くほど豊かな自然があり、絶滅の恐れがある貴重な生きものが暮らしていて、私自身、20年以上携わっていても未だに発見があるワクワクがいっぱいの場所です。そんな素敵で自然の中で田んぼの泥に触れて田植えをしたり、鎌で稲を刈ったりするのはとても心地よく、遊園地よりはるかに楽しいプレーランドだといつも感じています。そんな魅力の発見と発信、そして耕作が難しくなった田んぼでの米づくりを支える人を見つけることが YPP の目的です。

下大和田は谷津に人の暮らしがなく、開発計画のために周囲に耕作をしている農家の方がほとんどいらっしゃらないことから、逆に米づくりのイベントを開くには最適な場所です。時に 50 人を超える方が集まるほどの大きなイベントとなって、小さな子どもから高齢の方まで幅広い、大勢の人に谷津田の魅力伝えていきます。一方の小山は谷津に地元の農家の方が暮らしていらっしゃいますので、大きなイベントは静かな暮らしの邪魔になったり、知らない人が出入りすることは不安を感じさせたりしてしまうことになるのが心配になります。活動は中心となるメンバーとサポーターの比較的小規模なグループで進めています。前回ご紹介したように、小山 YPP では 2006 年に休耕田を開墾して田んぼに戻して米づくりを始めました。そこには貴重なニホンアカガエルや様々なトンボが戻ってきて、かつての谷津田の自然が復活しています。また、地元の小学校から児童に稲作体験をさせたいという要望があり、2007 年に再び田んぼを復活させて子どもたちが谷津田を経験する場を提供しています。学校田んぼには親御さんもお手伝いで来てくださいますので、谷津田の魅力を多くの方に伝える貴重な機会ともなっています。さらに地元の方の耕作が難しくなった田んぼを受け継いで米づくりをして、谷津田の保全を行っています。

稲作体験の場を提供しての谷津田の魅力の発信と実際に米づくりをすることによる直接的な谷津田の保全が YPP の両輪となる活動です。これまでの活動でいくつかの課題がありました。小山のような場所では地元の方のご理解を得ながら活動することが必須です。お話をしっかり聞き、ご意見を伺うことをいつも心が

けています。かつて隣接する大きな住宅街から田んぼへの農薬の空中散布を止めるよう要望が届いたことがありました。よく聞いてみると小山の状況を全く理解せず一方的な要求をしていることがわかり、YPP では小山の側に立って説明をしました。YPP の米づくりでは農薬や化学肥料を使っていませんが、耕作が大変な谷津田では農家の方に必要なものでそれなしでは耕作放棄に至ってしまうかもしれないのです。生業としての米づくりと私たちの保全のための米づくりの違いをはっきりと認識するきっかけとなりました。

最近では YPP の活動を進めるメンバー自身の高齢化が大きな課題となっています。新しく若い方も加わっていますが数は少なく、活動が縮小する危惧があります。そのためには自らの経験に固執しすぎることなく、柔軟に新しいアイデアを受け入れて間口を広げることが必要でしょう。

下大和田や小山には YPP の活動があるのである程度の谷津の保全ができていますが、たとえば千葉市全体を眺めた時にどうなっているのかいつも気になります。他の場所でも同様の活動もありますが数は限定的で、果たして十分なのか？、このあたりは行政に主導していただき、それをサポートするのが良いのではと考えています。

私自身若くはありませんが、YPP の活動を通じてこれからもできる限り谷津の保全に携わっていきたくて考



えています。ぜひ、一人でも多くの方にお力添えいただければと思いますので、少しでも関心がある方はお気軽にちば環境情報センターにお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします (終)。

※前回掲載した谷津田に忍び寄る黒い影 その2のサブタイトルに間違いがありました。正しくは「YPP 活動現場の移り変わり」です。お詫びして訂正いたします。

お米にまつわるミャンマーの話 第 10 回

～世界遺産「バガン」に住む幸福な雀たち～ 後編

千葉市若葉区 岩沢 久美子

バガン初日はオールドバガンにある有名どころの寺院を中心に回りました。遺跡とはいえ寺院を訪問するので、服装もミャンマーの民族衣装ロンジーを着ています。一言に寺院といっても、赤煉瓦が剥き出しのもの、表面に白い漆喰が塗られているものな

ど大きさや様式も様々なので、建築として見るだけでも大変興味深いです。とはいえ、当時 4 歳の娘を連れてお寺めぐりは飽きてしまうかと心配しましたが、寺院の中には巨大な仏像が多くあり、その大きさや数に圧倒されていました。また、寺院の各所に

配置された大小様々な仏像を見つけては「ブッダみ～つけた。」ゲーム感覚で楽しんでいるようでした。

2日目にいよいよパゴダ巡りチャレンジです。パゴダ巡りのルールは、4つの同じお供物を用意して、4つのパゴダを1日でお参りし、用意したお供物を1つずつ献上するというもの。お供物は、なんでも良いのですがご飯などの食べ物が最も一般的だそうです。ただし、食べ物の場合は午前中に全てを巡る必要があります。なぜなら、お供物はお坊さんが食べるのですが、ミャンマーではお坊さんは正午以降は食べ物を口にしないため、お坊さんの食事の時間に間に合うようにお届けする必要がありますからです。旅先でそんな朝早くにお供物をどう用意するのかと思いますが、どこのホテルでもお願いすると時間通りに用意してくれるそうです。さすが仏教の国ミャンマーです。ただ、全て回るには5時頃に開始しないと正午までには回り終えられないと言われ、こちらは断念して代わりにお花を奉納することにしました。

タクシーを手配し、運転手にメモを渡し、「この4つのパゴダに行きたい。」と言うと、「外国人観光客にパゴダ巡りを依頼されるのは初めてだ。」と驚かれました。ガイドブックにも書かれていなかったのも、ローカルな習慣なのかもしれません。「全部回るの大変だよ」と言われましたが、土地勘が全くないので「大丈夫！」と言ってパゴダ巡りを開始しました。後になって分かりましたが、4つのパゴダはバガンの北東、北西、南東、南西の角に位置しており、4つのパゴダ巡りはバガンの端から端を回る必要があります。時間がかかるわけです。最初のパゴダ最初に訪れたのはシュエズィーゴオン・パゴダ。バガンで最もメジャーなパゴダの一つです。パゴダ（仏塔）というのは、日本ではあまり馴染みがないですが、ミャンマーでは寺院よりもパゴダの方が圧倒的に多いです。通常は台座の上であり、丸の上の方が尖ったっており、ちょうどショートケーキの生クリーム飾りのような形です。色は白い漆喰の上に金箔や金版が貼られて金色に輝いています。パゴダの周りには壁があり、壁沿いに仏像などが祀られていることが多く、人々はパゴダや仏像にお供物をして、地面にひれ伏して祈りを捧げます。私は、ここで4つ同じ花束を購入し、最初のお参りをしました。シュエズィーゴオン・パゴダはガイドブックにも載る人気のパゴダのため、外国人観光客含めて多くの訪問客で賑わっていました。それが2つ目、3つ目と進

むにつれて、パゴダとしての知名度も低くなり、外国人客は減っていきました。

お昼ご飯をはさんで最後に向かったのは、最大の難所タンジータウン・パゴダ。このパゴダはエーヤワディー川の対岸にある山の頂上に位置します。そのため、対岸にはフェリーで渡り、さらにその後タクシーに乗って山頂のパゴダに向かいました。遠方かつ、すでに午後だったこともあり、



パゴダ巡り最初のスポット、シュエズィーゴオン・パゴダ。お供物のお花と一緒に

パゴダには外国人観光客はおろか、ミャンマー人もほとんどいません。そのため、この最後のパゴダは、静かにゆったりとお参りすることができました。パゴダは高台にあるため、涼しい風が心地よく吹いており、上から望む眺めは最高でした。パゴダを囲む低い壁は厚みがあり、中に窪みがあって、そこにはご飯やパンなどの食べ物がぎっしり詰まっていました。なぜこんなところに食べ物が供えられているのかと不思議に思っていると、雀が数羽、ご飯をついばんでいます。どうやら、この食べ物は鳥などの動物に与えるために置いてあるものようです。敬虔な仏教徒であるミャンマーの人たちは極力殺生を避け、虫も動物も生き物は皆大切にします。そういえば、ヤンゴンでも店の軒先に米の穂束を吊るして雀たちに餌付けしているのをよく見かけました。パゴダの雀たちは、いつも食べ物が豊富にあるからか、のんびりと食事を楽しんでいるようです。世界遺産で毎日新鮮な食べ物を食べ放題だなんて、なんとも優雅な暮らしぶりに私も心が洗われるような穏やかな気持ちになりました。

パゴダ巡りのご利益があったかどうかは正直分かりませんが、少し風変わりなローカル式のバガン観光を楽しめたのは本当に良かったと思います。勧めてくれた同僚に感謝です。内戦が続くミャンマーで、バガンはどうなっているのだろうと時々思います。パゴダの中では今も同じように穏やかな時が流れていることを願っています。

新浜の話 82 ～トビハゼ護岸 (1992年)

世界湖沼会議霞ヶ浦 (1994年) ～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

トビハゼ護岸 1991年のこと。江戸川放水路堤防の拡幅（補修・補強）工事が行われることになりました。

スロマン 作: 阿部 明子



通信「スロマン」ビュッブル
多田道太郎 愛情の思想より

アシが生えた泥干潟の部分を埋め立てて堤防の幅を広げるといふもの。既に前年一部は埋め立てられ、工事がそのまま続行すると、江戸川放水路のトビハゼの生息場所の大半が失われてしまいます。それに対してトビハゼ保護等の申し入れが出され、工事主体である建設省の江戸川工事事務所（現在は国土交通省江戸川河川事務所）の説明会が（たしか観察舎で）行われました。故鈴木有さんが「埋め立てられる場所のトビハゼをどう守るつもりなんですか。全部を捕獲して、生息できる環境を復元して戻すだけの覚悟があるんですか」と厳しく問うたのを覚えています。

この時、補修する堤防の全長を埋め立てて拡張するのではなく、ふとんかごという石積み前面に築いて埋立面積を減らしながら堤防を保護し、また埋立予定地の泥干潟の泥そのものを掘り上げて保存し、工事後に戻すこと、工事予定地のトビハゼを見つかるかぎり捕獲して保護飼育し、同じく工事終了後に戻すことを江戸川工事事務所は実際に行われたのです。市川自然博物館の金子謙一さん、また市川みどりの市民フォーラムの佐野郷美さん等の指導や協力のもと、1992年6月に飼育されたトビハゼを工事終了後の泥干潟に戻す時、まず大型のカニを放したり、アシを植えたりして生息環境の回復につとめました。経緯をまとめた「トビハゼ所長奮戦記」という本が建設省の報告書として出されています。半年をこす飼育下で生き延びたトビハゼは多くはなかったのですが、建設省が自らの手で生物保護を実践したということは大きな一歩でした。

世界湖沼会議霞ヶ浦（1994年11月だったか）

霞ヶ浦を会場として、第6回世界湖沼会議が開催されました。行政担当官や専門家、民間団体など環境や水質に関係深い多くの方々が参加されたもの。

大講堂で行われた全体会議の時のこと。500人（1000人か？）は入れる広い講堂は、国内ばかりか海外から来られた方々で埋まっていました。隣席のネパールのお役人の方と少しお話ししましたが、「私のところは象がいる熱帯のジャングルから、ヒマラヤの高山帯まで入る」とのこと。鳥獣保護にかかわる方々の高い教育と地位、プライドに驚嘆したものです。

こんなことがありました。建設省（国土交通省となるのはまだ先）の方が「これからの開発行為は現地の自然や生物の保護という観点なしには進められない。建設省ははっきりと舵を切りました」と発言されました。これに対して会場から「今の発言は、発表された方の個人的な見解と見ます」といった趣旨の反論が出ました。その時、会場のあちこちから「そんなことはありません」という声が飛びました。5、6人はおられたか。建設省職員の方々でしょう。カミソリ護岸、川の三面護岸、河川の直線化、道路建設等、自然を守れという声を無視して進めてこられた建設省、自然保護団体からは強大な敵としか言いようがなかった建設省の内部変化。無性に感動したことを覚えています。

対立のみだった環境保護活動と建設省との関係は改善が見られるようになり、現在では国土交通省のほうが環境省よりもひらけた（進んだ）対応をされることもあるとか。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2025年 1月号（第329号）の発送を 1月 8日（水）10時から千葉市民活動支援センター（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所〒 _____

ふりがな _____ 氏名 _____ Tel _____

E-mail _____ FAX _____

編集後記：トモエガモの大群が飛来しているということで、11月29日北印旛沼に行ってきました。8時過ぎに到着するとまるでムクドリ群れのように上空を舞っていました。推定10万羽といわれていましたが、それ以上かも。以前は希少種といわれていた本種ですが、昨年は全国で16万羽以上も確認されています。世界的に増えているのか、日本への渡りが増えたのか。興味深い現象です。

mud-skipper

会費の郵便振替口座は00130-3-369499です。

☆第 230 回 小山町 YPP「古代米の脱穀」 11月16日(土) 曇り 報告：高山邦明

おだに最後残った赤米と緑米の脱穀をしました。小山の谷津から脇に伸びるあざみ谷(あざみやつ)は今年もイノシシが出没し、緑米の田んぼに入り込まれて稲を一部倒されてしまいました。急遽田んぼの周りにネットを張ったおかげで、その後の被害は免れましたが、赤米と緑米の脱穀、赤米はモミ離れがいいので脱穀は簡単ですが、もみから生えた長いノギ(毛)が引っかかって唐箕がけが大変で、一方の緑米はもみが離れにくくて脱穀に少し手間がかかりますが、ノギが短い分唐箕がけは容易と対照的です。紅葉した木の葉が次々と落ちる中、順調に作業が進みました。あとは最後の作業のもみすりを残すのみです。参加者5名(大人5名)

【谷津田・季節のたより】 2024年11月

＜下大和田町＞ 報告 平沼勝男

11/3 明るい陽光の下、秋のチョウが楽しませてくれました。大地の上の日当たりのよいコナラの幹にとまっていたのはメスグロヒョウモンでした。メスなのでその名の通り全身が黒っぽく、ヒョウモンチョウの仲間には見えません。しかし美しいチョウです。日向ぼっこをしていたようです。田んぼわきのアメリカセンダングサの花で吸蜜していたのはウラナミシジミ。シジミチョウの仲間は見過ごしでしたが、気を付けるとウラナミシジミにも出会えます。セイタカアワダチソウの花でよく見かけるのはキタテハ。荒れた地に生えるカナムグラを食草としているため、休耕田の多いこの地では出会えるナンバーワンのチョウです。

＜小山町＞ 報告 た：たんぼぼ 高：高山邦明

- 11/3 アキアカネの姿を初めてみる、林縁に若いホソミオツネトンボの姿(高)
- 11/10 エナガ群れで飛来、夕方、フクロウと遭遇(赤) 11/12 複数のモンキチョウ、ヤマカガシに遭う(た)
- 11/13 ジョウビタキの声をはじめて耳にする(高) 11/14 小学校田んぼの斜面にウサギのフン発見!(た)
- 11/16 メスのジョウビタキが田んぼに降りて餌を探していた(高)
- 11/17 オオアオイトトンボが多数田んぼを訪れ、連結して産卵していた、他にアキアカネ、ナツアカネ、マユタテアカネなど赤とんぼも少数舞う(高) 11/19 リンドウがつぼみを付ける(高)
- 11/30 リンドウがひっそりと咲く(高)

【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

＜下大和田谷津田＞

・第306回 下大和田YPP「収穫祭」

日時：2024年12月14日(土) 10時00分～13時

場所：谷津田ビジターセンター(千葉市若葉区中野町1403 伊勢戸銘木店内)

内容：下大和田の畑で収穫した有機無農薬栽培のコムギ粉を使って、手作りの窯でピザを焼きます。

持ち物：お皿、コップ、ピザにのせたい具、ほかにも焼きたいものがあればお持ちください。

参加費：500円(小学生以上)

※ドングリのクラフト体験、谷津田米の販売もあります。フリーマーケットも同時開催 ご家庭で不要になったものや手作り品などお持ちください。参加希望の方は上記小西までご連絡ください。

・森と水辺の手入れ

日時：2024年12月15日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：来年の米づくりに向けて、休耕田の復田作業を行います。

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

・第300回 観察会とゴミ拾い

日時：2025年1月5日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：冬鳥の観察を中心に、鹿島川合流部まで巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物 参加費：100円

＜小山町谷津田＞

▼第231回 小山町 YPP「古代米のもみすり」

日時：2024年12月7日(土) 9時00分～ ☆小雨実施。

場所：古民家「和かな」 ※参加ご希望の方は、赤シャツ親父(e-mail: tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さ

